



四日市市立
港中学校だより

青葉旬う

令和5年12月22日
No.14 発行：校長

いよいよ2023年が終わろうとしています。今年はどんな1年でしたでしょうか。年末になると、この一年の世相を表す漢字ひと文字を一般から募集し、もっとも多かった字が発表されます。今年の漢字は、「税」でした。



1年を通して増税の議論や所得税などの定額減税が話題にのぼったり、「税」にまつわる様々な改正や検討が行われたからだそうです。本校の職員室でも「今年の漢字」が話題になり、「増」を挙げた人が何人かいました。世界情勢が安定しないこともあって物価上昇が止まりません。来年はもっと落ち着いた世の中になればいいと思います。

さて、先日は三者懇談会にお越しいただき、さらに学校アンケートへのご協力、ありがとうございました。アンケートが集計されましたらお伝えいたします。年末慌ただしい日が続くとは思いますが、健康に気をつけていただき、よい新年をお迎えください。

メディア・リテラシーの授業（2年生） 12月13日

公益財団法人「反差別・人権研究所みえ」（愛称：ヒューリアみえ）から荻田実樹（おぎた みき）先生が来校され、2年生の教室で「メディア・リテラシーと人権」についての授業をしていただきました。

先生からまず次の問いかけがありました。

SNSで次のような情報を得た

「台風で四日市川があふれそうなので、このあたりは退避対象地域になったらしい。」 この情報をシェア・拡散する？



生徒たちから様々な意見が出されました。先生からは、情報が事実かそうでないかではなく、その情報を広めるべきかどうかを考えたい。情報に振り回されることが結果として、他者の、あるいは私の人権をうばってしまう可能性があるというお話がありました。また、

「誰かの人権を奪うことは、いけないことだと知っている。」

「インターネット上で、人権を奪ったり奪われたりするような問題（誹謗中傷＝悪口）がたくさん起こっていることを知っている。」

⇒ こうした問題はなくならないのでしょうか？

誤った情報が自分の属性にあてはまらないとき、自分のしていることが差別だと気づきにくい。人権侵害や差別の問題は、「する側の問題」。だから、人権の問題を「自分の問題」として、「正しく」学んでほしいとお話されました。

最後には、

「あなたは、クラスで自分をどれくらい出せていますか。」

「クラスの他の人は、どれくらい自分を出せていると思いますか。」

という質問があり、「つらいこと、しんどいことを一人でがまんするのではなく、100%の自分を安心して出し合えるクラスにするにはどうすればいいか、みんなで考えてみてください。」と、まとめられました。

2 学期 終 業 式 12 月 22 日

2 学期の終業式は各教室でリモートにより行われました。校長からのお話を一部紹介します。

2 学期を「ともに生きる」という視点で振り返って考えたいと思います。

いくつかの質問をしますので、各自、心の中で「できた」「できなかった」とつぶやいてください。

- (1) 相手の立場に立って考えることができましたか？
- (2) 明るく挨拶ができましたか？
- (3) 相手の話をしっかり聞けましたか？
- (4) 「ありがとう」がきちんと言えましたか？
- (5) 「ごめんなさい」がちゃんと言えましたか？
- (6) 責任をもった発言ができましたか？
- (7) 自分から進んで掃除ができましたか？
- (8) 自分の仕事に責任を果たせましたか？
- (9) 友達との約束は守れましたか？

当たり前のことですが、「一人一人は違った人間」です。興味関心や好き嫌いは一人一人違います。だから、「気が合う人」と「気が合わない人」がいて当然です。

しかし、自分とは合わないからといって、陰で悪口を言ったり、ケンカしては安心して学校生活を送ったり、もっと言えば、安心して暮らせる社会にはなりません。

「安心して学校生活を送れるために」「安心して暮らせる社会になるために」

『ともに生きる』力を身に付けてください。

港中学校がめざす生徒像は、

「挨拶と笑顔を大切にする生徒」「自分も他者も大切にする生徒」です。

いよいよ令和5年が終わりますが、冬休みには、「学校の仲間とともに生きること」を振り返るとともに、「家族とともに生きること」の有難さに感謝して、充実した冬休みにして下さい。